

「省エネ改善対象設備」と「省エネ目標設定の手法」が分かる！

～MFCA（マテリアルフローコスト会計）を利用した「エネルギーロスの見える化」～

主催：一般財団法人/省エネルギーセンター 会員部

日時：平成27年4月16日(木) 15:00～17:00（交流会 17:30～18:30）

場所：省エネルギーセンター 会議室（港区芝浦2-11-5）

アクセス：JR 田町駅下車8分・都営線三田駅下車9分。

工場などの物の流れを「見える化」するツールとして、MFCA（マテリアルフローコスト会計：Material Flow Cost Accounting 図1）があります。これは、物のロスに着目し、それに投入したエネルギーや労働コストを算定してコスト改善の支援をする非常に有効なツールです。

省エネルギーセンターではこの考え方をもとに、エネルギーロスにより注目し、**工程全体のエネルギーの使用量やロス量が1枚のシートで鳥瞰できる「工場のエネルギーフロー評価ツール(※)」**を作成しました。入力項目を最小限におさえ、専門家でなくても簡単に使えるよう簡易化したもので、省エネすべき機器や工程の同定が容易になり、工場全体の省エネ目標に対して、各機器や工程で分担すべき省エネの決定に役立ちます。本講座では、MFCA の概要と、このツールの使い方、実際の適用例などを紹介します。(※)平成27年度より賛助会員様は無料で利用可。

◆図1 マテリアルフローコスト会計とは◆



廃棄物は、材料費(40万円)以外に、加工費(16万円)も一緒にロスとなっている

出典：日本能率協会コンサルティング HP

スケジュール

時間	テーマ	講師
15:00-16:00	1. MFCA の概要と適用例 ●MFCA とは何か ●環境・省エネ・コスト削減にどう役立つのか	プロファーム・ジャパン(株) 代表 立川博巳
16:00-17:00	2. 工場のエネルギーフロー評価ツールの活用方法 ●ツールの使い方 ●実際の適用例などの紹介	省エネルギーセンター 常務理事 谷口裕一
17:30-18:30	交流会	

受講要領

- 定員 60名（お早めにお申し込み下さい）
- 申込み方法 下記の参加申込書に記入後、ファックスまたはEメールにてお申し込み下さい。
- 受講料（消費税込）
一般：講座/21,600円 交流会/1,080円
賛助会員：講座・交流会ともに無料（原則1事業所1名のご参加とさせていただきます）
- 支払い方法 請求書がお手元に到着次第、指定口座にお振り込み下さい（振込手数料はご負担願います）。お支払期日は原則として、開催日の前日までとさせていただきます。また、実施1週間以内のキャンセルについては、理由の如何を問わず受講料はご請求させていただきます（代理出席をご検討下さい）。
- 申込み/問合せ先 一般財団法人省エネルギーセンター 人材育成事業部 講座係 E-mail: teceduc@eccj.or.jp
〒108-0023 東京都港区芝浦2-11-5 五十嵐ビルディング Tel: 03-5439-9774

4/16 特別企画講座「省エネ改善対象設備」と「省エネ目標設定の手法」が分かる！ 受講申込書

平成27年 月 日

会社名・事業所名・所属部署名	参加希望プログラム <input type="checkbox"/> 講演会 <input type="checkbox"/> 交流会 ※□にレ点を	<input type="checkbox"/> 賛助会員 (No. _____) <input type="checkbox"/> 一般 ■ 支払い予定日 平成 年 月 日
所在地 〒 -	受付No.	参加者氏名(フリガナ)
TEL : FAX :		受講料
連絡者氏名		円
eメール:	合計	円

▼お申込は FAX:03-5439-9776 または teceduc@eccj.or.jp まで▼

講師紹介

★立川博巳

プロファームジャパン(株) 代表 ISO/TC207/WG8 (MFCA) 日本代表エキスパート・国際幹事補佐。大手環境コンサルティング会社を経て環境・社会リスク管理（コンプライアンス・デューデリジェンス、EICC, ISO 対応）等のコンサルティング・トレーニング・アドバイザリーサービスを国内外で数百件実施。また、省資源化をベースとした環境経営を推進するマテリアルフローコスト会計のトレーニング・導入支援を国内外で約 1,500 名の関係者に実施。

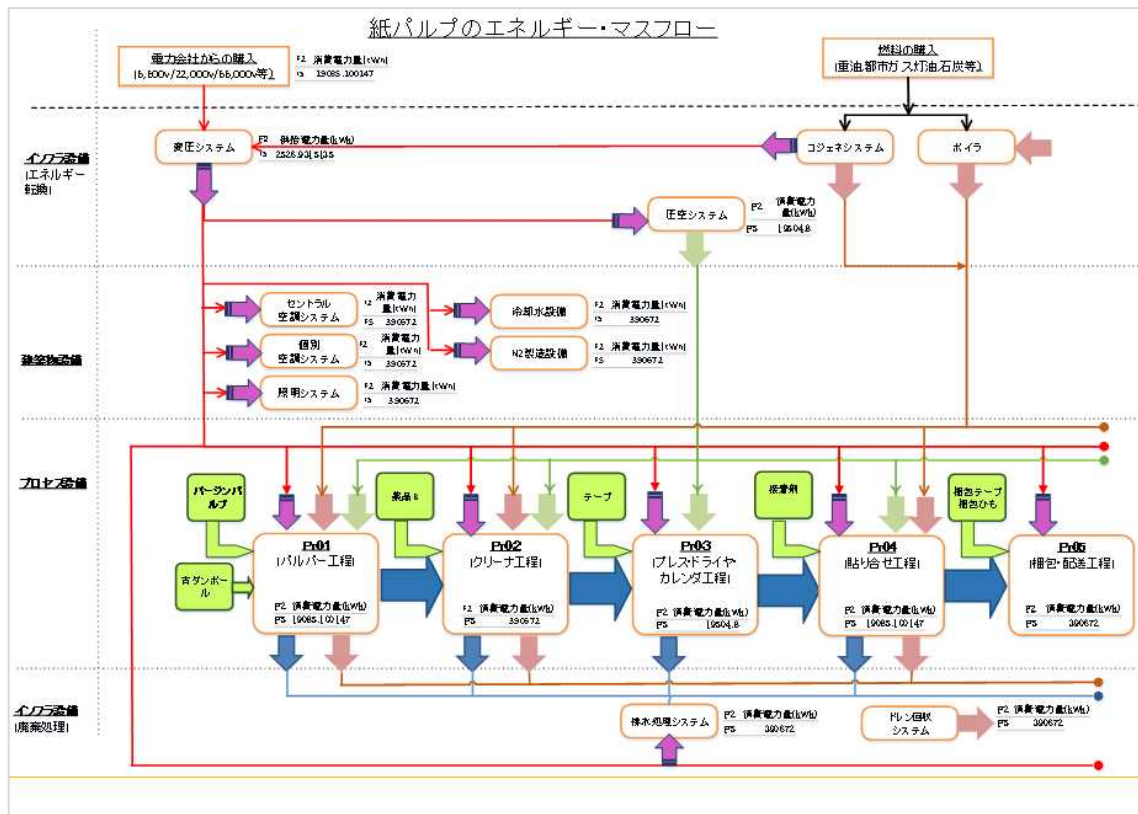


★谷口裕一

一般財団法人省エネルギーセンター常務理事
 大手鉄鋼メーカーで、製鉄プロセスの開発、省エネ対策、鉄鋼材料開発、技術企画などを担当。省エネルギーセンターでは、技術担当理事として省エネ診断技術の開発、ISO50001の普及、工場見える化ツールの開発など実施。とりわけ海外で上記ツールを使った省エネ体制の確立・推進指導については高い評価を得ている。



(※) 工場のエネルギーフロー評価ツール一例



各工程でのエネルギー・労務費・材料費の投入とロスが一覧できる